

6. 薬学部

I	薬学部の教育目的と特徴	6-2
II	「教育の水準」の分析・判定	6-3
	分析項目 I 教育活動の状況	6-3
	分析項目 II 教育成果の状況	6-13
III	「質の向上度」の分析	6-20

I 薬学部の教育目的と特徴

1 教育目的

長崎大学の基本的目標「学士力の涵養と、大学院教育の実質化により、長崎大学ブランドの高度専門職業人を育成する」及び学士課程における中期目標「ディプロマ・ポリシーを明確にし、それに合致するよう整備した教育課程により確固たる学士力を涵養する」のもと、本学部は、3つのディプロマ・ポリシー「医薬品の創製に関する基礎知識および最新の専門的知識を修得している」、「薬学における課題発見能力、問題解決能力を身につけている」及び「豊かな人間性と高い倫理観を持って、ヒトの健康の確保をめざす「くすり」の専門家としての行動ができる」を掲げて、基本的教養と専門の基礎となる幅広い知識を修得させた上で、薬学に関する高度の専門的知識やスキルを修得させ、もって薬の専門家として社会に貢献しうる人材を育成することを教育の目的とする。

本学部は薬学科と薬科学科を設けており、薬学科は「医療薬学に関する高度の専門的知識及び技能・態度を修得させ、豊かな人格と高い倫理観を備えた薬学専門職者として社会に貢献しうる有為の人材の育成」を、薬科学科は「医薬品の創製、環境衛生等に関する高度の専門的知識を修得させ、主体性と科学的創造性を備えた研究者、技術者として社会に貢献しうる有為の人材の育成」を目的として掲げている。

2 特長

本学部では「ヒトの健康を目指して」を標語に掲げ、特徴ある教育体制を整備している。まず、1年次において、医学、歯学、薬学、保健看護の学生と共修する少人数アクティブ・ラーニング及び薬局・病院、製薬企業、公的試験研究機関の見学を行ってキャリア意識を高めている。薬学科での薬剤師養成教育では、実務実習及び卒業研究と卒論発表会の厳格な実施に加えて、4年次に症例検討医歯薬保共修アクティブ・ラーニング、6年次に離島での薬局病院実習と大学病院での内科系診療科実習を行っている。さらに、文部科学省の「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」及び「大学間連携共同教育推進事業」に連続して採択された本学部を中心とする県内国公立3大学、自治体、職能団体が協力して取り組む医療人材育成拠点プログラムが、在宅チーム医療や在宅がん医療・緩和ケア教育に関する大学間共同の授業科目を多数開講している。薬科学科においては、大学院教育と連携させながら「創薬科学 I～III」での研究志向型講義や分野横断型卒論発表会など創意ある教育体制で、創造性と主体性を備えた研究者育成を目指している。また、下村脩博士ノーベル化学賞顕彰記念創薬研究教育センターと地域薬剤師卒後教育研修センターがシンポジウム・講演会等への学部学生の積極的聴講を促して研究者マインドの育成を図っている。

3 想定する関係者とその期待

薬学科においては特に病院薬剤師、薬局薬剤師及び薬事、環境にかかわる官公庁が想定する関係者として該当し、その期待は、豊かな人格と高い倫理観を備えた薬学専門職者として業務を遂行できる人材を養成することである。一方薬科学科は、特に創薬を中心とする医薬品開発企業、化学・環境衛生・食品・化粧品関連企業、大学や試験研究機関及び官公庁が想定する関係者として該当し、その期待は、高度の専門的知識を持ち主体性と科学的創造性を備えた研究者・技術者として社会に貢献できる人材を養成することである。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

本学部は、薬学科と薬科学科の2学科を設置して、長崎大学薬学部規程に定めた教育目的（資料1-1：長崎大学薬学部規程（抜粋））を達成するための教育体制を整えている。

資料1-1：長崎大学薬学部規程第2条，第3条

第2条 本学部は、大学教育における基本的教養と専門の基礎となる幅広い知識を修得させるとともに、薬学に関する高度の専門的知識を修得させ、もって薬の専門家として社会に貢献しうる有為の人材を育成することを目的とする。

(学科及び学科の目的)

第3条 本学部に、次の学科を置く。

薬学科

薬科学科

2 学科の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

- (1) 薬学科は、医療薬学に関する高度の専門的知識及び技能・態度を修得させ、豊かな人格と高い倫理観を備えた薬学専門職者として社会に貢献しうる有為の人材を育成することを目的とする。
- (2) 薬科学科は、医薬品の創製、環境衛生等に関する高度の専門的知識を修得させ、主体性と科学的創造性を備えた研究者、技術者として社会に貢献しうる有為の人材を育成することを目的とする。

入学定員数は、薬学科40名、薬科学科40名であり、収容定員は薬学科240名、薬科学科160名である。学生現員数は、薬学科は合計251名、薬科学科は合計174名である（資料1-2：長崎大学薬学部在籍者数）。

資料1-2：長崎大学薬学部在籍者数（平成27年5月1日現在）

学科	入学定員	総定員	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
薬学科	40	240	40	42	40	40	40	49	251
薬科学科	40	160	42	42	39	51			174
合計	80	400	82	84	79	91	40	49	425

(出典：薬学系事務室学務係より)

本学部では、薬学科30名、薬科学科11名の教員を15の専門分野に配置し、3つの協力講座の教員と共に学部専門教育実施体制を整備している（資料1-3：長崎大学薬学部組織図）。全教員が大学院医歯薬学総合研究科に所属し、任期制のもとで5年ごとに再任審査を受け、研究・教育実績を公開している。大学院教育・研究と連携した臨床薬学教育及び創薬科学教育を行っており、学生による授評評価の結果は学務情報システムで公開している。また、大学間連携プロジェクトと連携した在宅チーム医療教育体制も整えている。

長崎大学薬学部 分析項目 I

資料 1 - 3 : 長崎大学薬学部組織図 (出典 : 薬学部ホームページ及び薬学系事務室総務係より)

専攻(医歯薬学総合研究科)	講座	専門分野	教員数(平成27年5月1日現在)
生命薬科学	分子創薬科学	細胞制御学	3人
		創薬薬理学	2人
		薬化学	3人
		薬品製造化学	3人
		医薬品合成化学	2人
		ゲノム創薬学	3人
	天然薬物学	天然物化学	3人
	健康薬科学	機能性分子化学	3人
		衛生化学	3人
薬品分析化学		2人	
医療科学	展開医療薬学	薬物治療学	3人
		医薬品情報学	2人
		薬剤学	3人
		実践薬学	3人
新興感染症病態制御学	感染免疫学	感染分子薬学	3人

協力講座

講座	部局等	教員数(平成27年5月1日現在)
薬用植物学	医歯薬学総合研究科附属薬用植物園	1人
薬品構造解析学	共同研究交流センター先端科学研究支援部門	1人
治療薬剤学	長崎大学病院薬剤部	1人

学生支援体制については、学生十数名に1名のメンター教員を配置し、学修ポートフォリオを活用したサポート体制を取っている。成績不良学生にはカウンセラーとも連携してメンター教員などが随時面談を行っている。また、学部長が学生代表から直接要望や意見を聞く「学生との懇談会」を毎年開催している。

入学者選抜については、両学科のアドミッション・ポリシー（資料1-4：薬学部のアドミッション・ポリシー）を募集要項や学部ホームページで明示し、入学試験委員会による高校訪問や高大連携事業などで学部説明を行い、適切な入学者の確保に努めている。

実務実習及び事前学習については、実務実習委員会が調整し、事前学習を医療薬学系4研究室の教員が、実務実習を実践薬学分野教員の主導の下、訪問指導を全教員が分担している。外部組織との連携については、大学病院薬剤部、長崎県薬剤師会、及び長崎県病院薬剤師会との「病院・薬局実務実習に関する情報・意見交換会」の開催（資料1-5：病院・薬局実務実習に関する情報・意見交換会案内）、さらには長崎国際大学薬学部、薬剤師会、病院薬剤師会などと情報交換をする「長崎薬学コンソーシアム会議」を開催している（別添資料1：平成27年度第11回長崎薬学コンソーシアム会議次第，P.1）。

資料 1-4 : 薬学部のアドミッション・ポリシー (出典: 薬学部ホームページより)

薬学科のアドミッション・ポリシー

1. 高等学校までの履修科目の基礎事項を理解している。
2. 化学及び物理もしくは生物において十分な学力がある。
3. 医師や看護師などの医療人や患者様との意思疎通ができるための協調性やコミュニケーション能力を高めようと努力する。
4. 薬学の基礎知識, 最新の薬学情報を修得し, さらに大学院に進学するなど学問的向上心を維持できる。
5. 薬剤師として医療チームの一員となり, 地域医療に貢献したいという強い意志を持つ。

薬科学科のアドミッション・ポリシー

1. 高等学校までの履修科目の基礎事項を理解している。
2. 化学, 及び物理もしくは生物において十分な学力がある。
3. 生命科学・創薬科学分野に関心が高く, その発展に貢献したいという目的意識が明確である。
4. 大学院に進学して博士号を取得し, 将来薬学研究者として国際的に活躍したいと考えている。
5. 創薬や生命薬科学分野に関する研究を通じて社会に貢献しようという強い意志を持つ。

資料 1-5 : 病院・薬局実務実習に関する情報・意見交換会案内 (出典: 薬学系事務室学務係より)

<p>病院・薬局実務実習施設 指導薬剤師 各位</p>	<p>平成 26 年 12 月 2 日</p> <p>長崎大学薬学部長 中山 守雄</p>
<p>長崎大学薬学部学生の病院・薬局実務実習に関する 情報・意見交換会についてのお知らせ</p>	
<p>長崎県薬剤師会並びに長崎県病院薬剤師会の先生方におかれまして、日ごろより長崎大学薬学部への薬剤師教育に対して多大なご協力・ご指導を賜り誠に感謝申し上げます。</p> <p>さて今年度の病院・薬局実務実習も、おかげさまで順調に進行し、11月14日には第二クールが終了します。昨年も申しましたように、実習施設と薬学部との適切な連携体制の下に、病院・薬局実務実習を実施することが重要と強く認識しております。従いまして、今年度も、「本年度の成果と次年度に向けた課題」について意見交換する会の開催を、下記の要項で、企画致しました。</p> <p>師走も迫り大変お忙しい時期で恐縮ですが、是非、皆様方にお集りいただければ、幸いに思う次第です。</p>	
<p>記</p>	
<p>【日 時】 平成 26 年 12 月 2 日 (火) 19:00~20:00 (予定)</p> <p>【場 所】 長崎大学薬学部 (文教キャンパス) 2F 多目的ホール</p> <p>【内 容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本年度の事例報告と次年度に向けた課題 (病院実習) 2. 本年度の事例報告と次年度に向けた課題 (薬局実習) 3. 実務実習に関する意見交換 4. 新薬学教育モデル・コアカリに準拠した実務実習の指針について (説明及び質疑応答) 	

長崎大学薬学部 分析項目 I

ファカルティ・ディベロップメント (FD) については、全学的な FD への参加に加え、教育の質の向上を目指した学部独自の FD を毎年行っている (資料 1-6 : 薬学部 FD 実施状況)。本学部教員の平成 27 年度の FD 参加率は 87.8% と極めて高い。

資料 1-6 : 薬学部 FD 実施状況

年度	実施時期	対象者	実施概要
27	平成 27 年 9 月 16 日 13 : 25~17 : 00 於 : 第 2 講義室	全教員 出席者 (35 名)	教養・専門教育の新たな展開 ~新教育体制への対応~ 講師 : 大学教育イノベーションセンター長松坂誠應理事, 中嶋 幹郎教授, 西田 孝洋教授塚元 和弘教授
26	平成 26 年 9 月 10 日 13 : 25~17 : 00 於 : 第 2 講義室	全教員 出席者 (40 名)	教養教育から専門教育へ ~教育内容の点検と改善に向けて~ 講師 : 大学教育イノベーションセンター岡田佳子准教授, 栗山正巳准教授, 黒田直敬教授, 西田孝洋教授, 中山守雄教授
25	平成 25 年 9 月 5 日 13 : 25~17 : 00 於 : 第 2 講義室	全教員 出席者 (40 名)	教養教育から専門教育へ ~アクティブ・ラーニングの支援FD (II) ~ 講師 : 田中隆教授, 岩田修永教授, 中山守雄教授, 齋藤義紀准教授, 情報メディア基盤センター古賀掲維准教授, 西田孝洋教授, 西郷達雄カウンセラー
24	平成 24 年 9 月 4 日 13 : 30~16 : 30 於 : 第 2 講義室	全教員 出席者 (約 40 名)	モジュール型教養教育開始の前に ~アクティブ・ラーニングの支援FD~ 講師 : 大学教育機能開発センター山地弘起准教授, 情報メディア基盤センター古賀掲維准教授, 言語教育研究センター奥田阿子助教, 尾野村治教授, 大山要准教授, 医学部先端医育支援センター安武 亨教授, 塚元和弘教授
23	平成 23 年 9 月 5 日 13 : 30~17 : 00 於 : 第 2 講義室	全教員 出席者 (約 40 名)	企業が求める人材と学術会議「分野別質保証の在り方」を目指した「学士力教育」改革への期待 他 講師 : 福島昭二長崎大学監事, 塚元和弘教授, 黒田直敬教授, 中山守雄教授, 尾野村治教授, 西郷達雄カウンセラー
22	平成 22 年 12 月 18 日 ~12 月 19 日 於 : 長崎市式見ハイツ	全教員 出席者 (約 40 名)	アクティブ・ラーニング講座 1 「多様な PBL を導入した授業方法」 講師 : 山田康彦三重大学教育学部教授, 中西良文教育学部准教授

(出典 : 薬学系事務室総務係)

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由) 薬学科での高資質な薬剤師養成と、薬科学科での広い知識と高度な技術を持つ研究技術者育成のために、臨床薬学教育と創薬科学教育のバランスを考慮した教育体制、学生との懇談会開催やカウンセラーと連携した学生支援、教育改善のための学部独自の FD、学外指導薬剤師との密接な情報交換体制、大学間連携プロジェクトと連携した教育体制を構築してきた。これらの努力は、医療への貢献及び創薬研究への貢献という両観点から想定する関係者の期待に合致している。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

薬学科と薬科学科それぞれで養成する能力をディプロマ・ポリシー（資料1-7：薬学科及び薬科学科のディプロマ・ポリシー）として、さらにそれを修得する過程が分かるカリキュラムマップ（別添資料2：薬学科及び薬科学科のカリキュラムマップ）を薬学部ホームページに明示している。平成27年には全科目についてナンバリングを行って各科目の位置づけを明確にした。

資料1-7： 薬学科及び薬科学科のディプロマ・ポリシー（出典：薬学部ホームページより）

薬学科のディプロマ・ポリシー

- A 医療の担い手としてのこころ構えと倫理観を身につけている。
- B 化学物質の物理的性質を理解し、医薬品や生体分子の解析法を説明できる。
- C 化学反応の理解に基づき、医薬品の合成法、機能や働きを説明できる。
- D 自然が生み出す薬物について、起源、有効成分や薬効を説明できる。
- E 生命体の成り立ちを、個体、器官、細胞、分子のレベルで理解している。
- F 生体の機能調節や生体防御に関する基本的知識を身につけている。
- G ヒトとその集団の健康維持や健康と化学物質、環境との関わりを理解している。
- H 薬物の製剤化の意義と方法を理解し、投与形態や体内動態制御法を説明できる。
- I 薬学分野の研究に必要な基本的実験技術に習熟している。
- J 薬学研究や医療に関わる情報を、主体的に収集し、活用できる。
- K 代表的な疾病とその薬物治療法について説明できる。
- L 医療チームの一員として、医療の場で必要とされる薬剤師の役割を理解し果たすことができる。
- M 薬剤師を取り巻く法律と制度を理解し、社会保障制度を論じることができる。
- N 医療薬学分野における課題を発見し、問題解決に取り組むことができる。
- O 卒業研究を論文にまとめ、口頭発表し、討議できる。
- P 専門分野の英語で書かれた学術論文を読解し、解説できる。

薬科学科のディプロマ・ポリシー

- A 医療の担い手としてのこころ構えと倫理観を身につけている。
- B 化学物質の物理的性質を理解し、医薬品や生体分子の解析法を説明できる。
- C 化学反応の理解に基づき、医薬品の合成法、機能や働きを説明できる。
- D 自然が生み出す薬物について、起源、有効成分や薬効を説明できる。
- E 生命体の成り立ちを、個体、器官、細胞、分子のレベルで理解している。
- F 生体の機能調節や生体防御に関する基本的知識を身につけている。
- G ヒトとその集団の健康維持や健康と化学物質、環境との関わりを理解している。
- H 薬物の製剤化の意義と方法を理解し、投与形態や体内動態制御法を説明できる。
- I 薬学分野の研究に必要な基本的実験技術に習熟している。
- J 薬学研究や医療に関わる情報を、主体的に収集し、活用できる。
- K 医薬品の探索から臨床試験に到る創薬過程を包括的に理解している。
- L 薬学分野における課題を発見し、問題解決に取り組むことができる。
- M 卒業研究を論文にまとめ、口頭発表し、討議できる。
- N 専門分野の英語で書かれた学術論文を読解し、解説できる。

教育課程は教養教育科目44単位を学部1～2年生に配置し、3年生からは薬学科で薬学教育モデル・コアカリキュラムに沿った専門教育を、薬科学科では加えて創薬科学に関する講義を配している（資料1-8：薬学部の教養教育科目及び専門教育科目の最低修得単位数、別添資料3：薬学部の専門教育科目の名称、単位数及び標準履修年次）。平成27年度からの改訂モデル・コアカリキュラムに対応するため、講義内容を再点検し、科目名、開講時期を変更して新カリキュラムとカリキュラムマップを作成した。

資料 1-8 : 薬学部の教養教育科目及び専門教育科目の最低修得単位数

区 分		授業科目の区分	最低修得単位数		
			薬学科(6年制)	薬科学科(4年制)	
教養教育科目	必須科目	教養ゼミナール科目		2	2
		情報科学科目		2	2
		健康・スポーツ科学科目		2	2
		外国語科目	英語	8	8
			初習外国語	4	4
	小 計		18	18	
	モジュール科目	全学モジュールⅠ科目		6	6
		全学モジュールⅡ科目		6	6
		学部モジュール科目		12	12
		小 計		24	24
	自由選択科目	自由選択科目		2	2
小 計		2	2		
計			44	44	
専門教育科目	講義科目	必修	90	52	
		選 択	6	5	
	演習科目		2	2	
	実習科目		34	10	
	卒業研究		15	15	
計			147	84	
合 計			191	128	

(出典:長崎大学薬学部規程より)

特徴的な講義・実習としては以下のようなものが挙げられる。

- ・ 1年次医歯薬保共修少人数アクティブ・ラーニングの「教養ゼミナール」
- ・ 病院・薬局・企業研究所の見学, 若手研究者講演会等で構成される「薬学概論Ⅱ」
- ・ 薬科学科の研究者育成必須科目「創薬科学Ⅰ～Ⅲ」
- ・ 4年次での医歯薬保共修・少人数アクティブ・ラーニングでの症例検討(別添資料4: 4年次医歯薬共修授業の学生への配布資料(抜粋))
- ・ 6年次後期: 卒業論文発表会(口頭発表と質疑応答)

また, きめ細やかな学生支援と問題解決能力の早期修得のため両学科とも3年次後期から研究室仮配属している。

資料 1-9 : 薬科学科エントリー制卒業研究ポスター発表会 (出典: 薬学部教授会資料より)

分野横断型卒業研究ポスター発表会

参加登録方法&登録締切: 卒論提出時に学務係にて(2/5まで)。

発表日時: 3月9日(水)15時~

場 所: 多目的ホール内(特許関係はclosedなホール内の別会場)

ポスターボード: 180 x 90 cm (A0版が掲示可能)

掲示説明: 1時間程度

・薬科学科4年生を対象としたエントリー制の分野横断型の卒業研究ポスター発表会。

・発表者は前もって登録を行い、卒業研究の内容をポスターにまとめ、薬学部教員・学生等の前でポスター発表。

・発表者の中から、優秀ポスター賞を選び表彰する。

・特許で公表できない内容はclosed会場(教員のみ)にて。

薬科学科学生のおよそ90%が大学院に進学することから, 大学院教育や下村脩博士ノーベル化学賞顕彰記念創薬研究教育センターと連携して, 講演会やシンポジウムを学生に聴講させることで, 創薬研究者育成に努めている(別添資料5: 平成22-27年度 下村脩博士ノーベル化学賞顕彰記念創薬研究教育センター主催・共催の講演会・シンポジウム)。

さらに, 薬科学科の特徴的教育手法として, 4年次生が2名の薬科学科1年生に対して卒業研究内容のプレゼンテーションを行う「卒業研究体験」を実施している。4年生はこれを数組の1年生に繰り返すことで論理的説明力とプレゼンテーションスキルを醸成し,

1年生は学修意欲向上につなげている。また、卒論発表では、優秀発表賞を設けた卒論発表会を開催している（資料1-9：薬科学科エントリー制卒業研究ポスター発表会）。

インターネットでの主体的学習促進支援システム（Learning Assessment & Communication System: LACS）にすべての講義演習科目が登録され、資料提示、課題・レポート提出、テストなどの自学サポートなどに活用している。このシステムは出席管理システムや学修ポートフォリオと連携しており、学務情報システムでは、学生自身が学修評価を確認できる。

国際性を涵養するための英語教育については、TOEICの目標点を650点と設定して、平成23年度から1年次と3年次にTOEICを無償で受験させている。また、教養英語教育を発展させたアドバンスドイングリッシュを3年次に開講し、大学院入試の外国語試験をTOEICで代替する制度に変更した。1年次から3年次のTOEIC平均点の伸びは毎年大きくなっており取組の成果が認められる（資料1-10：TOEIC平均点の推移）。

資料1-10：TOEIC平均点の推移（出典：薬学系事務室学務係より）

	1年次平均点	3年次平均点	平均点の伸び
平成23年度入学者	487	475	-12
平成24年度入学者	503	519	16
平成25年度入学者	498	562	65

共用試験及び国家試験対策として、CBT、OSCE、国家試験対策それぞれに専門委員会を設置して支援している。模擬試験等の実施に加えて、6年次に演習科目「医療薬学総合演習」設け、学部研修室を受験者に自習室として開放している。

平成29年度入学者まで薬科学科（4年制）でも条件を満たすことで国家試験受験資格取得が可能である。本学部では薬剤師資格をもつ研究技術者を求める社会的要請に応えるため、希望する学生が不足する単位を大学院進学後に追加で修得できる支援制度「薬剤師国家試験受験資格を得るための履修モデル」を設定している（別添資料6：薬剤師国家試験受験資格を得るための履修モデルについて）。

資料1-11：薬害被害者による講義の案内（出典：薬学部ホームページより）

公開講座のお知らせ

長崎大学薬学部では、この度、薬害に関する学習機会を地域社会に提供する目的で、公開講座を下記の要領で開催いたします。講師には、熊本市在住の出田妙子さんをお招きし、薬害肝炎患者という視点から、ご自身の体験や薬害の実態についてお話していただきます。さらに、薬害防止に向けて、薬学を始めとする医療従事者への要望を論じていただく予定です。

講演内容：私と薬害－これからの薬学生に望むこと－

講師：出田妙子

開催日時：平成27年11月5日（木）14：30～16：00

開催場所：長崎大学薬学部多目的ホール（2階）

受講料：無料

倫理性を涵養するために、薬害被害者による講演を平成18年度から講義に導入している。講義は公開講座として一般に公開している（資料1-11：薬害被害者による講義の案内より）。

超高齢化社会の急速な進展に伴い、在宅医療のニーズが高まり地域におけるチーム医療体制の整備が急務となっているが、平成21～23年度には、本学部が中心となって文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム（戦略GP）」選定取組「在宅医

療と福祉に重点化した薬学と看護学の統合教育とチーム医療総合職養成の拠点形成」事業を実施した。さらに、その取組成果を引き継ぐ形で平成 24 年度からは文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」選定取組「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」事業が進行中である。本取組は平成 27 年度の間評評価においては、全国 25 件の地域連携分野の中で唯一の最高評価（S 評価）を受けている（資料 1－12：多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点(薬学部ホームページより)）。

2つのプログラムでは、本学部に事務局を置いて大学間単位互換制度の下、在宅チーム医療や在宅がん医療・緩和ケア教育に関する大学間共同による授業科目（講義・演習・実習）を多数開講している（別添資料 7：大学間単位互換制度「NICE キャンパス長崎」に提供している集中講義の一つ「在宅がん医療・緩和ケア実習」の案内）。

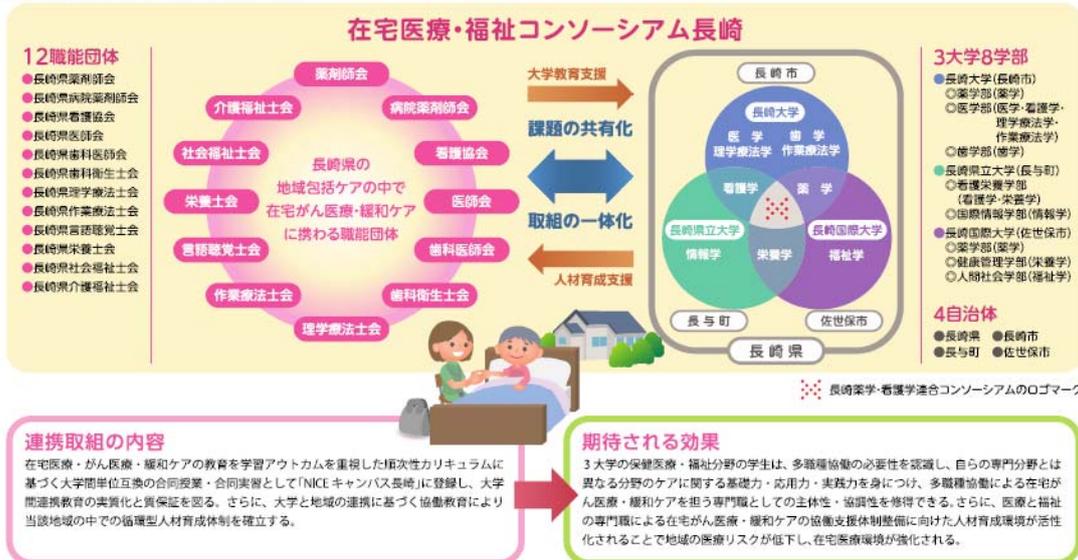
資料 1－12：多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点（出典：薬学部ホームページより）

平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」選定取組

取組名称：多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点
取組大学：長崎大学（代表校）、長崎県立大学、長崎国際大学

わが国の保健医療分野では多職種協働による在宅医療体制の整備が重要な課題となっており、地域包括ケアの中で在宅がん患者の療養支援を行う体制整備を推進する必要性は高い。そこで、薬学・看護学の統合教育体制を確立している長崎県内の国公私立3大学（長崎大学・長崎県立大学・長崎国際大学）が、さらに医学・歯学等の教育者を加えた協働教育体制の充実を図り、県内の4自治体・12職能団体と連携・一体となって、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成の拠点作りを目指す取組である。

連携取組の実現に向けた実施体制



医療過疎地域を多く抱える長崎県の特異な社会要請に応える教育として、平成 23 年度から薬学科 6 年次に、医学部との共修による高次臨床実務実習Ⅱ「離島実習」を長崎県五島市及び新上五島町で実施している。この実習は、五島地域で医学部生と共に診療所や社会福祉協議会等の業務を 5 日間見学体験することで、離島・へき地医療の特異性を理解し、社会福祉と公衆衛生の視点を持ってチーム医療を担う薬剤師の養成を目的としている(資料 1－13：平成 27 年度離島実習の班分け及びスケジュール)。

長崎大学薬学部 分析項目 I

資料 1-13:平成 27 年度離島実習の班分け及びスケジュール(出典:薬学部教授会資料より)

性別	人数	実習先	実習期間(月-金)*	引率
女	2	上五島	① 6/1-6/5	川上
男	4	下五島		宮元
男	1	上五島	② 6/15-6/19	近藤
女	1			
男	1	下五島		淵上
女	3			
女	3	下五島	③ 6/29-7/3	宮元
男	1			

*この前後に移動日がある

特徴ある臨床実習として、平成 22 年度から 5 年次生の授業科目「高次臨床実務実習 I」で長崎大学病院において医学部生と共修で 2 週間の参加型臨床実習を、平成 23 年度からは 6 年次生の「高次臨床実務実習 II」において「専門診療科実習」を実施している。これにより薬局と病院での実務実習を経験した学生が臨床の現場でさらに高度な知識を修得する(資料 1-14:高次臨床実務実習 II「専門診療科実習」とスケジュール)。

資料 1-14:高次臨床実務実習 II「専門診療科実習」スケジュール(出典:薬学部教授会資料より)

平成 27 年度 高次臨床実務実習 II (専門診療科) スケジュール

性別	木 木 水 火 金					離島実習
	がん診療	感染制御	栄養管理	検査部	皮膚科	
女					7/3	6/1 ~ 6/5
女			8/26	8/25	7/3	
男					7/17	
男	7/2		8/26	8/25	7/17	
男			8/26	8/18	7/31	
男	7/2		8/12		7/31	
男			8/12	8/18	8/28	6/15 ~ 6/19
女	7/2			8/18	8/28	
男			8/12	8/11	9/11	
女	7/9			8/11	9/11	
女	7/9				9/25	
女	7/9		7/22	8/11		
女	7/30			8/4		6/29 ~ 7/3
女	7/30				9/25	
女			7/22	8/4	9/25	
男		7/23	7/22	8/4		

地域薬剤師及び在学生への教育に関して、本学部の地域薬剤師卒後教育研修センターが卒後教育研修(資料1-15:平成25-26年度長崎大学薬学部地域薬剤師卒後教育研修センター第2期研修会のプログラム(薬学部ホームページより))として、平成27年10月時点で16回を数えるセンター主催の講演会、さらに2回の「先導的薬剤師の未来像を考えるシンポジウム」開催などの活動を行っている(資料1-16:第一回先導的薬剤師の未来像を考えるシンポジウム)。このシンポジウムでは、薬剤師だけでなく薬学関係の研究者を講師として招き、研究マインドの涵養に努めている。

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由) ディプロマ・ポリシーとカリキュラムマップの明示、1年次と4年次での歯保共修アクティブ・ラーニング、薬科学科での「卒業研究体験」を含めた卒論研究と発表会の厳格な実施、大学間連携プロジェクトによる在宅チーム医療に関する集中講義の開講、「離島実習」と「専門診療科実習」の実施、LACSの活用、地域薬剤師卒後教育研修センターによる卒後教育研修の実施、共用試験と国家試験受験のための支援、4年制学生の国家試験受験資格取得に対する支援など、工夫された方法で多様な教育を実施している。これらの活動、取組は想定する関係者の期待を上回る水準にあると判断する。

資料1-15:平成25-26年度長崎大学薬学部地域薬剤師卒後教育研修センター第2期研修会のプログラム(出展:薬学部ホームページより)

長崎大学薬学部 地域薬剤師卒後教育研修センター 第2期研修会 参加者募集のご案内

**研修会の目標:臨床研究を通して課題探求・解決力に
優れた薬剤師を育成する**

「第2期研修会」として、実際にアンケート調査による臨床研究を行うことで、テーマ立案から成果発表までの研究のノウハウを習得し、課題探究・解決力を養うプログラムを企画しましたので、参加者を募集いたします。

研修会のスケジュール(予定)

- | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>I. 研究テーマ立案
第1回:2013年4月27日(土)15:00~17:30
アイデアを効率的に出す方法(講義)
情報収集(演習)
第2回:2013年5月18日(土)15:00~16:30
研究テーマ発案(ディスカッション形式)</p> <p>II. 研究実施計画
第3回:2013年6月15日(土)15:00~16:30
アンケート調査を実施する方法(講義)
第4回:2013年7月13日(土)15:00~17:30
アンケート調査のデザイン
第5回:2013年8月3日(土)15:00~17:30
アンケート調査項目の設定</p> <p>III. 調査実施(2013年9月~12月)</p> | <p>IV. データ処理・統計解析
第6回:2014年2月15日(土)15:00~17:30
統計解析(講義・演習)</p> <p>V. 考察・ディスカッション
第7回:2014年3月8日(土)15:00~16:30</p> <p>VI. 発表スキル
第8回:2014年4月26日(土)15:00~17:30
発表要旨の書き方(講義)・作成(演習)
第9回:2014年5月17日(土)15:00~16:30
パワーポイント演習
第10回:2014年6月14日(土)15:00~17:30
ポスター作成</p> <p>VII. 学会発表
九州山口薬学大会(長崎):2014年11月</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

会場:長崎大学薬学部(模擬薬局)

予定変更などは下記ホームページで告知します。

<http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/graduate/>

各回とも定員30名に達し次第締め切らせていただきます。

参加費 全10回とも、**無料**です。

学会発表

全10回中5回以上の参加で、希望される方は共同発表者となります。

募集要項

対象者:長崎県内在住の薬剤師(年齢は問いません)
募集期限(第1回研修会):**2013年3月31日**
(第2回以降):開催日の一ヶ月前
応募方法:以下の事項を記入し、右記担当者までE-mail、
FAXまたは郵送でご応募ください。
記載事項:お名前、性別、年齢、勤務先、実務経験年数、
電話番号、E-mailアドレス(お持ちの方)

・担当(問い合わせ先):
〒852-8521
長崎市文教町1-14
長崎大学薬学部
藤 伸太郎
sfumoto@nagasaki-u.ac.jp
TEL: 095-819-2454
FAX: 095-819-2897

資料1-16：第一回先導的薬剤師の未来像を考えるシンポジウム（出展：薬学部ホームページより）

第1回

先導的薬剤師の未来像を 考えるシンポジウム

活躍する長薬同窓生とこれからの薬剤師への期待

日時 2014年11月8日(土) 12:55~17:50
(受付12:00~)

会場 長崎大学薬学部 多目的ホール

特別講演 「経験してきたこと、そしてこれから」
二神 幸次郎 S49 (福岡大学薬学部教授・福岡大学病院薬剤部長)

講演① 「先導的薬剤師教育に必要なもの? -有機化学の立場から-」
加藤 恵介 S62 (東邦大学薬学部教授)

講演② 「製薬企業から見た医薬品研究開発」
小山 真治 H6 (参天製薬株式会社研究開発企画統括部プログラムリーダー)

講演③ 「アメリカの薬剤師教育 -臨床薬学教育における教官の役割-」
山田 三樹子 H10 (University of New Mexico, Assistant Professor)

講演④ 「薬学部の強みを生かして
-研究マインドを有する医療人・医療ニーズを理解した研究者の育成-」
堀口 道子 H19 (東京理科大学薬学部助教)

対象
学部生(1~6年生)、大学院生、長薬同窓生、
薬剤師、教員、その他薬剤師教育に関わる方

単位
日本薬剤師研修センター 集合研修3単位

シンポジウム参加費：無料
情報交換会 18:00~19:30
会場 : 長崎大学生協
会費(当日) : 2,000円(学生1,000円)

ポスター制作: 長崎大学薬学部薬学科6年 三浦謙介

主催 長崎大学薬学部・地域薬剤師卒後教育研修センター
後援 長薬同窓会、長崎大学薬学部下村脩博士ノーベル化学賞顕彰記念創薬研究教育センター、
同臨床薬剤師養成センター
世話人 川上 茂(医薬品情報学分野) ☎、中嶋 幹郎(実践薬学分野) ☎
平成26年度大学高度化推進経費による教育改革支援プログラム 代表 西田 孝洋(薬理学分野)
実行委員 佐々木 均 ☎、梶島 力 ☎、岸川 直哉 ☎、宮元 敬天 ☎、淵上 由貴 ☎

事務局(問い合わせ)
長崎大学大学院歯薬学総合研究科 医薬品情報学分野 淵上 由貴
Email: y-fuchigami@nagasaki-u.ac.jp

シンポジウム開催のための学生ボランティア
を募集しています。希望者は事務局まで!

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

単位取得状況について、学年ごとの平均修得単位数を資料1-17に、留年率を資料1-18に示す。平成18年4月より、薬学科は6年制へと移行したため、平成24年3月に第1期の卒業生を出した。

資料1-17：平均修得単位数（出典：薬学系事務室学務係より）

		平均修得単位数(薬学科)		平均修得単位数(薬科学科)	
		前 期	後 期	前 期	後 期
平成 22 年度	1年生	17.9	20.4	19.0	20.4
	2年生	20.1	18.6	18.4	17.6
	3年生	22.6	13.5	20.8	11.7
	4年生	16.8	15.2	7.1	17.4
	5年生	2.8	15.2		
	6年生				
平成 23 年度	1年生	18.8	20.8	19.5	20.8
	2年生	22.0	19.9	21.7	18.0
	3年生	24.1	14.2	21.1	11.3
	4年生	16.0	15.6	8.6	19.2
	5年生	2.4	21.9		
	6年生	4.4	15.0		
平成 24 年度	1年生	16.7	18.5	16.2	18.0
	2年生	21.2	17.9	22.0	18.3
	3年生	22.4	14.4	20.3	12.5
	4年生	16.5	15.5	9.5	17.5
	5年生	3.1	20.5		
	6年生	4.6	15.2		
平成 25 年度	1年生	15.8	18.6	15.8	17.7
	2年生	22.7	21.3	21.4	19.8
	3年生	22.7	14.9	20.3	10.6
	4年生	17.4	15.5	11.0	18.2
	5年生	3.6	21.3		
	6年生	4.9	15.5		
平成 26 年度	1年生	15.9	18.4	15.5	17.9
	2年生	23.2	20.8	21.3	18.9
	3年生	24.5	14.6	22.8	10.6
	4年生	17.3	15.9	9.8	19.3
	5年生	2.5	20.9		
	6年生	5.2	14.8		
平成 27 年度	1年生	17.4	18.6	17.7	18.8
	2年生	23.6	20.9	22.1	18.9
	3年生	25.5	15.6	23.2	10.9
	4年生	15.2	15.1	8.9	17.4
	5年生	3.9	18.3		
	6年生	4.8	15.0		

資料1-18：留年率の推移（出典：薬学系事務室学務係より）

薬学部 留年率		H22				H23				H24				H25				H26				H27				(人)
所属	年度 学年	平成23年3月				平成24年3月				平成25年3月				平成26年3月				平成27年3月				平成28年3月				
		卒業	留年	合計	留年率																					
薬学科	6年次生					40	1	41	2.44%	39	2	41	4.88%	36	5	41	12.20%	36	9	45	20.00%	37	11	48	22.92%	
薬科学科	4年次生	35	6	41	14.63%	42	5	47	10.64%	34	8	42	19.05%	33	8	41	19.51%	41	12	53	22.64%	35	15	50	30.00%	

薬学科4年生及び薬科学科卒業後履修モデル受講する学生が受験する共用試験については、受験者数、合格者数を資料1-19に示すとおりで、毎年受験者全員が合格している。

資料1-19：CBT及びOSCE受験者数と合格者数の推移（出典：薬学系事務室学務係より）

		実施日程	受験者数	合格者数
平成27年度	CBT	本試験：平成28年1月9,10日	54	54
		追再試験：平成28年3月10日		
	OSCE	本試験：平成27年12月23日	54	54
		追再試験：平成28年2月21日		
平成26年度	CBT	本試験：平成27年1月19日	50	50
	OSCE	本試験：平成26年12月21日	50	50
平成25年度	CBT	本試験：平成26年1月14日	43	43
		追再試験：平成26年2月28日		
	OSCE	本試験：平成25年12月22日	43	43
平成24年度	CBT	本試験：平成25年1月15日	43	43
	OSCE	本試験：平成24年12月23日	43	43
平成23年度	CBT	本試験：平成24年1月6日	37	37
	OSCE	本試験：平成23年12月18日	37	37
平成22年度	CBT	本試験：平成23年1月22日	40	40
	OSCE	本試験：平成22年12月26日	40	40
平成21年度	CBT	本試験：平成21年12月22日	40	40
		追再試験：平成22年2月22日		
	OSCE	本試験：平成22年1月24日	40	40
		追再試験：平成22年2月21日		

薬剤師国家試験は、平成24年度の第98回以降難化傾向にあり、全国的に合格率が下がっている。その中で本学部では、演習、模試、講習会等の支援を行うことで、6年制第一期の学生が受験した平成23年度に比べ、平成24年度以降新卒者の合格率は全国平均よりも高いあるいは同等の値を維持し、全国順位も高い傾向にある（資料1-20：薬剤師国家試験合格者の推移）。さらに、既卒者にも模試や講習会で配慮を行っており、平成24年度以降総数での全国順位は改善傾向にある。

資料1-20： 薬剤師国家試験合格者の推移（出典：薬学系事務室学務係より）

実施年度	回	総数					新卒者					既卒者				
		受験者数	合格者数	合格率(%)	全国合格率(%)	全国順位	受験者数	合格者数	合格率(%)	全国合格率(%)	全国順位	受験者数	合格者数	合格率(%)	全国合格率(%)	全国順位
平成20年度	第94回	107	80	74.77	74.40	39/62	84	74	88.10	84.83	26/62	23	6	26.09	49.26	54/55
平成21年度	第95回	25	8	32.00	56.35	59/62	4	0	0	39.68	51/62	21	8	38.10	60.42	54/61
平成22年度	第96回	21	10	47.62	44.44	31/61	0	0	0	33.55	-/61	21	10	47.62	44.98	32/61
平成23年度	第97回	47	38	80.85	88.31	57/66	39	36	92.31	95.32	49/66	8	2	25.00	38.22	48/60
平成24年度	第98回	47	39	82.98	79.10	36/71	42	39	92.86	83.60	16/71	5	0	0	14.09	36/60
平成25年度	第99回	47	36	76.60	60.84	15/73	36	30	83.33	70.49	16/73	7	4	57.14	34.19	9/71
平成26年度	第100回	52	39	75.00	63.17	17/73	36	28	77.78	72.65	11/73	16	11	68.75	49.54	11/73
平成27年度	第101回	59	49	83.05	76.85	35/73	36	31	86.11	86.24	45/73	23	18	78.26	74.21	14/73

平成21年度および22年度は新卒者なし。

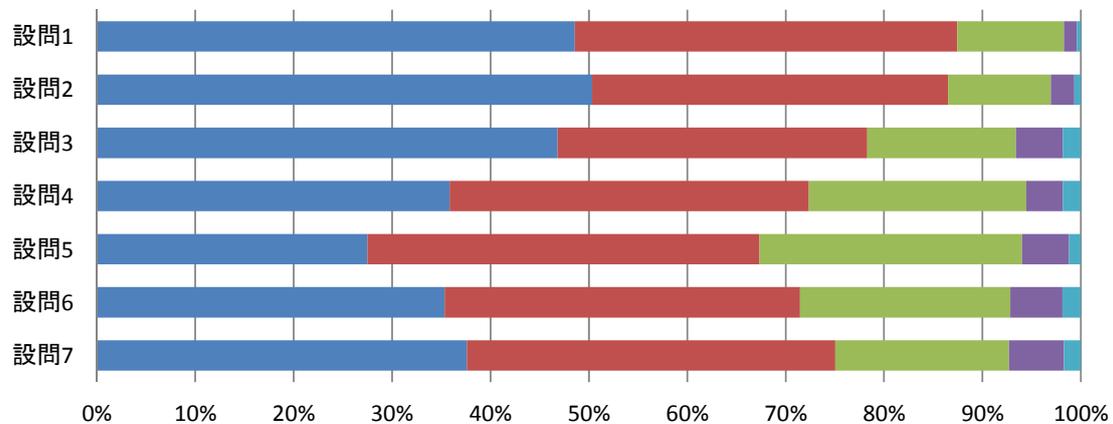
平成26年度及び平成27年度の学生による授業評価の結果を資料1-21に示す。専門教育に関して“自分はシラバスに記載された授業目標を達成することができた”及び“総合的にみて、この授業は自分にとって満足できるものであった”という設問に対して、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と答えた薬学部学生の割合はそれぞれ67%、75%と高い水準を示しており、平成18年度の調査でそれぞれ52%、65%程度であったのに比べて大きく改善している。学生による授評評価の結果は科目ごとに学務情報システムで公開している。

資料1-21： 学生による授業評価集計結果

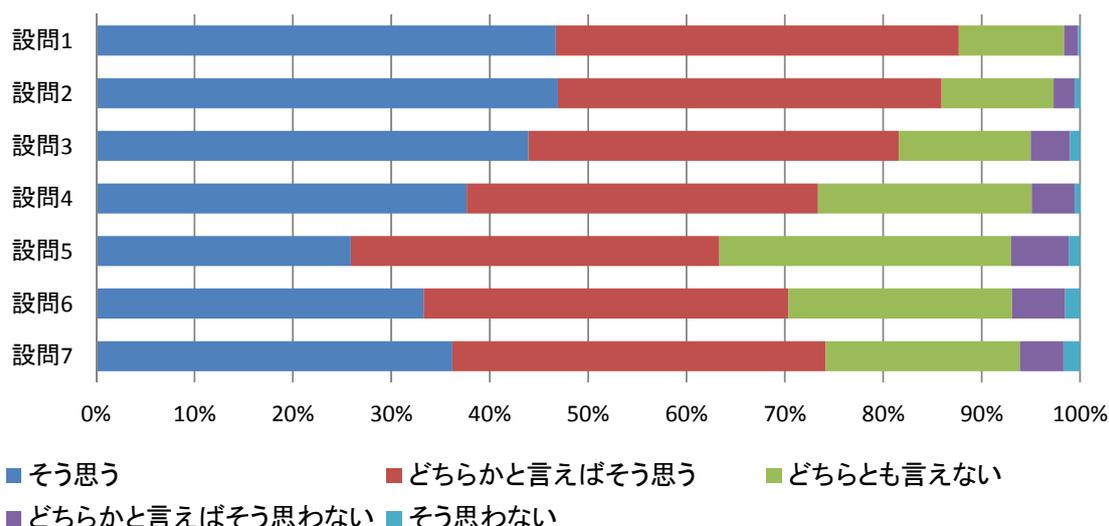
学生による授業評価の設問

- 設問1 シラバスは、授業の目標や計画及び評価方法を適切に示していた。
- 設問2 授業は目的達成のため計画的に進められていた。
- 設問3 授業担当者の教え方は適切であった。
- 設問4 授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行っていた。
- 設問5 自分は、シラバスに記載された授業目標を達成することができた。
- 設問6 自分は、この授業によって学習意欲が喚起された。
- 設問7 総合的にみて、この授業は自分にとって満足できるものであった。

平成27年度



平成26年度



(水準) 期待される水準にある

(判断理由) 学生による授業評価アンケートの結果は以前より改善している。また、薬剤師国家試験合格率は比較的高い水準の中でさらに改善しており、ライセンス教育の観点からも学生が身に付けている学力・能力は関係者が期待される水準にあると判断できる。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)平成 22～27 年度の本学部卒業後進路状況を資料 1-22 に示す。特徴として、薬学科卒業生の就職先の 49-51%が病院薬剤部であり、その 85%が九州地域の大学病院や地域中核病院であることが挙げられ、高度な薬剤師を目指す学生が多いことを裏付けている。残りの薬学科卒業生のうち 20～30%が調剤薬局、3～15%が企業へ就職しており、就職先は全国に分散している。一方、薬科学科では 90-100%が大学院に進学し、博士前期課程修了後の就職希望者は毎年 100%に近い就職率となっている。

キャリア開拓・支援の取組としては、本学部就職支援委員会を設置して、キャリア開拓や就職関連イベントの開催などのほか、以下の取組にあたっている。

- ・「就職支援室」を設けて、薬局・病院・企業による説明会を常時行っている。
- ・学部オリエンテーションで就職情報企業による説明会を実施し、模擬面接や就職に関する説明会を毎年数回開催している。
- ・薬学概論Ⅱの講義で本学部出身の若手研究者数名による講演と就職活動についての助言を依頼している。
- ・薬学関連企業の第一線の研究者と就職カウンセラーなどを講師として招いた講演会「薬学フォーラム」を毎年開催してキャリアモチベーションの向上を図っている(資料 1-23:平成 27 年度「薬学フォーラム」ポスター)。

長崎大学薬学部 分析項目Ⅱ

資料1-22：薬学部卒業者の就職・進学調査（出典：薬学系事務室学務係より）

年度	22年度			23年度			24年度			25年度			26年度			27年度				
区分	所在地	人数	計	所在地	人数	計	所在地	人数	計	所在地	人数	計	所在地	人数	計	所在地	人数	計		
製造業 (製薬・化学)	大阪	1	1	愛知	1	3	神奈川	1	5	東京	1	1	大阪	2	3	大阪	2	3	東京	1
				東京	1		東京	1					東京	1						
				大阪	1		徳島	1												
							東京	2												
医薬品卸売業			0			0	大分	1	4			0			0			0		
							大阪	1												
							東京	2												
その他			0			0	長崎	1	2			0			0			0		
							東京	1												
病院			0	長崎	7	20	長崎	8	19	福岡	6	19	長崎	8	18	長崎	4	18	福岡	3
				福岡	3		福岡	3		鹿児島	6		福岡	3		福岡	3			
				熊本	2		神奈川	2		長崎	3		大分	2		佐賀	1			
				広島	2		静岡	1		京都	2		鹿児島	2		熊本	1			
				沖縄	2		広島	1		佐賀	2		沖縄	2		大分	1			
				鹿児島	1		兵庫	1					静岡	1		宮崎	1			
				宮崎	1		大分	1								鹿児島	2			
				大分	1		鹿児島	1								沖縄	1			
				島根	1		岡山	1								広島	2			
																岡山	1			
																神奈川	1			
調剤薬局			0	長崎	4	10	福岡	4	12	札幌	4	11	福岡	3	8	福岡	3	6	長崎	1
				福岡	2		札幌	2		大分	2		長崎	2		長崎	1			
				佐賀	1		佐賀	2		東京	2		宮崎	2		大阪	1			
				島根	1		愛媛	1		福岡	1		兵庫	1		東京	1			
				東京	1		栃木	1		神奈川	1									
				神奈川	1		大分	1		佐賀	1									
							東京	1												
ドラッグストア			0	神奈川	1	1			0			0			0			0		
官公庁・教育	茨城	1	1	長崎	1	3			0	沖縄	1	1	福岡	1	1	長崎	2	3	島根	1
				沖縄	1															
				広島	1															
進学	長崎	29	32	長崎	38	43	長崎	30	30	長崎	1	36	長崎	1	38	長崎	2	33	長崎	29
	東京	1		長崎	1			長崎		33	長崎		34	長崎		1				
	熊本	1		東京	1			京都		1	京都		1	京都		2				
	大阪	1		福岡	2			徳島		1	大阪		1							
				兵庫	1						北海道		1							
編入学			0			0			0			0	長崎	4	6	長崎	2	4	宮崎	1
										宮崎	1		愛媛	1						
										愛知	1									
その他		1	1		2	3		1	1		1	5		5	5		6	6		
		0			1			0			0			0						
合計			35			83			73			73			79			73		
薬学科						39			39			37			36			38		
薬科学科						44			34			36			43			35		

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由) 薬学科卒業生の大学病院及び地域中核病院への就職の多さは、高度な薬剤師を目指す意識の高さを示しており、教育の質の反映と受け取れる。また、薬科学科の卒業後の極めて高い大学院への進学率は、本学部及び大学院が魅力ある教育研究の場を提供していることを裏付けている。以上を総合的に考慮して、進路・就職の状況は想定する関係者の期待を上回る水準にあると判断できる。

下村 脩博士ノーベル化学賞顕彰記念創薬研究教育センター主催

第6回 長崎大学薬学フォーラム

～ 君は何を目指すのか。進路を考えよう。～

日時：平成27年12月10日（木）12:50～16:45

場所：長崎大学薬学部・多目的ホール

対象：全学年

薬学に関連する業種で活躍されている方々の話を聴いて、自分の進路について考えよう。

12:50～13:00 開会挨拶 長崎大学 薬学部長 黒田 直敬

— 講演 —

13:00～13:30 就活の現状と就活に向けて今から準備しておくこと
株式会社リクルートキャリア 就職支援担当 大谷 祐季名

13:30～14:00 化粧品企業の研究と製品開発
株式会社資生堂リサーチセンター 勝山 雅子

14:00～14:30 味の素株式会社における
アミノ酸関連の研究開発と事業の紹介
味の素株式会社 イノベーション研究所 先端融合研究グループ 黒澤 涉

14:30～14:45 休憩

14:45～15:15 化学メーカーで薬学系出身者が活躍できる分野
株式会社ダイセル 事業支援センター 人事グループ 松田 洋和

15:15～15:45 農薬業界と日本農薬の研究開発について
日本農薬株式会社 研究開発本部 総合研究所合成ユニット合成2グループ 三原 純

15:45～16:15 製薬企業の仕事について
田辺三菱製薬株式会社 CMC本部 プロセス研究所 森山 紀章

16:15～16:45 就職活動をきっかけに考えるキャリアとは
長崎大学 学生支援課 就職支援室 キャリア相談員 赤城 理恵子



連絡先：長崎大学薬学部 就職支援委員長・教授 尾野村 治
TEL: 095-819-2429, Mail: onomura@nagasaki-u.ac.jp
学務係 山田・尾崎
TEL: 095-819-2416

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

1 「在宅医療と福祉に重点化した薬学と看護学の統合教育とチーム医療総合職養成の拠点形成（大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム採択の取組）」

本取組では、長崎県内で薬剤師と看護職の養成課程を持つ国公私立の3大学（長崎大学、長崎県立大学及び長崎国際大学）と関係5団体が連携した「長崎薬学・看護学連合コンソーシアム」を組織し、在宅患者が必要としている様々なケアに対応できる実践的な臨床能力を継続性を持って学べる教育プログラムを提供し、チーム医療総合職養成のための新たな教育を展開した。

○大学教育プログラム（対象：大学生（薬学生・看護生など））

連携3大学の教育資源を活かした在宅医療・多職種チームケアに関する共同授業・合同実習の実施、並びに県内13大学間の単位互換制度（NICEキャンパス長崎）の活用

○生涯学習プログラム（対象：社会人（薬剤師・看護師など））

薬剤師や看護職をはじめとする医療従事者が最新の在宅医療・多職種チームケアを統合的に学べるプログラムの編成と提供

これら大学と地域が連携した教育体制は、在宅医療に対する時代の要請を先取りした取組と評価され、平成21～23年度に文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」選定取組の一つとして推進した。

2 「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点（大学間連携共同教育推進事業採択の取組）」

本取組は、事例1の補助事業において確立した長崎県内の国公私立3大学で構成される薬学・看護学の連携に、医学・歯学等の教育者を加えた協働教育体制の下、県内の4自治体・12職能団体・1法人と連携する「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」を組織し、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアに特化した専門人材育成のための新たな拠点作りを目的としている。

連携取組の内容として、在宅医療・がん医療・緩和ケアの教育を学習アウトカムを重視した順次生カリキュラムに基づく大学間単位互換の合同授業・合同実習としてNICEキャンパス長崎に登録し、大学間連携教育の実質化と質保証を図るとともに、大学と地域の連携による循環型人材育成体制の確立を目指した活動を推進している。

本取組は、平成24年度に文部科学省「大学間連携共同教育推進事業（平成28年度までの5か年事業）」に採択されているが、平成27年度に文部科学省が実施した中間評価では、当初3年間の活動実績が「当初計画を超える優れた取組である」との高評価で、全国25件の地域連携分野の中で唯一の最高評価（S評価）を受けた。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

1 「薬剤師国家試験全国順位の上昇」

国家試験全国順位は平成24年度の66校中57位から順位を上げ、平成27年度は73校中17位と大きく改善した。

2 「下村脩博士ノーベル化学賞顕彰記念創薬研究教育センターによる創薬科学教育及び研究支援」

下村脩博士ノーベル化学賞顕彰記念創薬研究教育センター等による創薬科学教育支援により、薬科学科の学生の多くが大学院に進学し、学会等での学生の受賞数が増加した（資料1-24：薬学部学生及び博士前・後期課程学生の学会等での受賞の推移）。一方、薬科学科学生の学会発表数は、平成24年度17件（本人発表14件）、平成25年度25件（本人発表14件）、平成26年度53件（本人発表20件）、平成27年度64件（本人発表22件）と大きく増加し、研究マインドを持った学生の育成が行われている。

資料1-24: 薬学部学生及び博士前・後期課程学生の学会等での受賞の推移(出展: 薬学系事務室学務係より)

	受賞月	学会名など	賞の名称	学年	氏名
平成27年度	3月	日本薬学会第136年会優秀発表賞	優秀発表賞	博士前期課程1年生	中島 将
	1月	第7回日本プロテインホスファターゼ研究会学術集会	奨励賞	博士前期課程2年生	山口 文音
	11月	第45回複素環化学討論会	Heterocycles賞	博士後期課程2年生	吉村 光
	11月	第6回食品薬学シンポジウム	優秀発表賞	博士前期課程1年生	日高 基貴
	10月	第34回 日本認知症学会学術集会	学会奨励賞	博士前期課程1年生	堀 祐真
	9月	APSTJ Global Education Seminar 2015-1	APSTJ Global Education Seminar 2015 Award	薬学科6年生	大山 奈津子
	7月	平成27年度 九州薬科学研究教育連合大学院生合宿研修	優秀者賞	博士前期課程1年生	出田 智明、大山 達也、中島 将、八田 大典
	6月	第25回金属の関与する生体関連反応シンポジウム	ポスター賞	博士前期課程2年生	上原 涉
	6月	日本薬剤学会第30年会	永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞	薬学科6年生	大山 奈津子
	6月	日本薬剤学会第30年会	最優秀発表者賞	博士前期課程2年生	西村 光洋
	5月	第25回記念万有福岡シンポジウム	ベストディスカッション賞	博士後期課程2年生	吉村 光
平成26年度	3月	日本薬学会第135年会	優秀発表賞	博士後期課程1年生	小嶺 敬太
	12月	第31回日本薬学会九州支部大会	優秀発表賞	博士前期課程2年生	高橋 茜
	12月	第31回日本薬学会九州支部大会	優秀発表賞	博士前期課程2年生	岩崎 暉
	10月	第63回日本分析化学会年会	若手優秀ポスター賞	薬学科6年生	上門 由梨奈
	10月	第27回バイオメディカル分析科学シンポジウム	星野賞・研究奨励賞	薬学科5年生	吉見 春香
	10月	第51回ペプチド討論会	ペプチド討論会ポスター賞	博士前期課程1年生	江藤 諒
	9月	第31回有機合成化学セミナー	ポスター賞	博士後期課程1年生	吉村 光
	9月	第19回日本病態プロテオーム学会学術集会	学会奨励賞	薬学科6年生	小出 恵理子
	9月	第27回国際ポリフェノール会議・第8回タンニン会議	ポスター賞	博士前期課程1年生	若松 初美
	7月	平成26年度 九州薬科学研究教育連合大学院生合宿研修	優秀者賞	博士前期課程1年生	矢野 玄馬
	6月	第24回万有福岡シンポジウム	有機合成化学協会九州山口支部ポスター賞	博士後期課程2年生	西丸 達也
5月	第12回次世代を担う有機化学シンポジウム	優秀発表賞	博士後期課程2年生	西丸 達也	
5月	平成25年度日本薬剤学会「薬と健康の週間」懸賞論文	第1席受賞	薬学科6年生	山崎 裕太郎	
平成25年度	3月	日本薬学会第134回年会	優秀発表賞	博士後期課程1年生	西丸 達也
	12月	第30回日本薬学会九州支部大会	優秀発表賞	博士前期課程2年生	吉村 光
	12月	第30回日本薬学会九州支部大会	優秀発表賞	博士課程2年生	下川 研太
	11月	第32回日本認知症学会学術集会	学会奨励賞	博士前期課程1年生	中野 梨絵
	11月	第39回 反応と合成の進歩シンポジウム	優秀発表賞	博士後期課程3年生	松原 孝昌
	10月	第43回複素環化学討論会	最優秀発表賞	博士前期課程2年生	小嶺 敬太
	7月	平成25年度 九州薬科学研究教育連合大学院生合宿研修	優秀者賞	博士前期課程1年生	池原健太 高橋 茜
	5月	1st International Conference & 6th Symposium on Organocatalysis	優秀発表賞	博士前期課程2年生	吉村 光
5月	第23回万有福岡シンポジウム	有機合成化学協会九州山口支部ポスター賞	博士後期課程1年生	濱口 典久	
平成24年度	3月	日本薬学会第133年会	優秀発表賞	博士前期課程1年生	小嶺 敬太
	3月	日本薬学会第133年会	優秀発表賞	博士前期課程2年生	今西 愛
	12月	第29回日本薬学会九州支部大会	優秀発表賞	博士前期課程2年生	服部 芳野
	11月	第1回GenoCon(国際合理的ゲノム設計コンテスト)	優秀プログラム賞	薬科学科3年生	江藤 諒
	11月	第42回複素環化学討論会	優秀ポスター発表賞	博士前期課程1年生	篠澤 美奈
	7月	平成24年度 九州薬科学研究教育連合大学院生合宿研修	優秀者賞	博士前期課程1年生	竹本 祐樹 藤田 佳子
	6月	第36回有機電子移動化学討論会	優秀ポスター賞	博士前期課程2年生	石丸 景子
5月	第22回万有福岡シンポジウム	有機合成化学協会九州山口支部ポスター賞	博士前期課程2年生	山口 大介	
平成23年度	3月	日本薬学会第132年会	優秀発表賞	博士前期課程1年生	松尾 星来
	12月	第28回日本薬学会九州支部大会	優秀発表賞	薬科学科4年生	馬場 雅子
	11月	第41回複素環化学討論会	優秀ポスター発表賞	博士前期課程1年生	松尾 星来
	7月	第29回九州分析化学若手の会 夏季セミナー	優秀発表賞	博士前期課程2年生	淵上 由貴
	7月	平成23年度 九州薬科学研究教育連合大学院生合宿研修	優秀者賞	博士前期課程1年生	石丸 景子 角谷 尚美
	7月	第29回九州分析化学若手の会 夏季セミナー	九州分析化学若手賞	博士前期課程2年生	千原光 貴
5月	第9回次世代を担う有機化学シンポジウム	優秀発表賞	博士後期課程2年生	江藤 康平	
平成22年度	12月	第27回日本薬学会九州支部大会	優秀発表賞	博士前期課程2年生	吉野 円香
	7月	平成22年度 九州薬科学研究教育連合大学院生合宿研修	優秀者賞	博士前期課程1年生	小川 綾華
	5月	第20回万有福岡シンポジウム	有機合成化学協会九州山口支部ポスター賞	博士後期課程3年生	芝原 攝也